

令和5年度

授業内容（シラバス）

調理専攻科

1年次

学校法人 長岡総合学園

悠久山栄養調理専門学校

授業内容（シラバス）

《教育目的》

1. 食生活に関する理論と技術の基礎を学び、応用・実践して、社会の発展に寄与しうる人材を育成する。
2. 社会に出て能力を発揮できるよう、自分の専門分野に強く、人格円満で常識を兼ね備えた心豊かな人材を育成する。

《課程、学科及び修業年限並びに定員》

本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は、次のとおりとする。

| 課 程 名 | 学 科 名 | 修業年限 | 入学定員 | 総定員 | 学級数 | 備 考 |
|--------|---------|------|-------|-------|-----|-----|
| 衛生専門課程 | 栄 養 士 科 | 2 年 | 4 0 名 | 8 0 名 | 2 | 昼 間 |
| 衛生専門課程 | 調理専攻科 | 2 年 | 4 0 名 | 8 0 名 | 2 | 昼 間 |
| | 調 理 師 科 | 1 年 | 4 0 名 | 4 0 名 | 1 | 昼 間 |

2023年度調理専攻科1年 教育課程

| 規程教育内容 | 規程 時間数 | 教科科目名 | 学則規定 時間数 | 次年度履修 科目 | 本年度 | | 担当者 | |
|------------|-----------|-----------|-------------|-------------|-----|----|---------|-------|
| | | | | | 前期 | 後期 | | |
| 食生活と健康 | 90 | 公衆衛生学 | 90 | | ○ | ○ | 小関 俊成 | |
| 食品と栄養の特性 | 150 | 栄養学 | 90 | | ○ | ○ | 本宮 仁美 | |
| | | 食品学 | 60 | | ○ | ○ | 長谷川 千賀子 | |
| 食品の安全と衛生 | 150 | 衛生法規 | 30 | ○ | | | | |
| | | 食品衛生学 | 90 | | ○ | ○ | 東 澄子 | |
| | | 食品衛生学実験 | 30 | ○ | | | | |
| 調理理論と食文化概論 | 180 | 調理理論 | 120 | | ○ | ○ | 加藤 弘朗 | |
| | | 食文化概論 | 60 | | ○ | ○ | 清水 まり子 | |
| 調理実習 | 300 | 実習1 | 日本料理Ⅰ | 100 | | ○ | ○ | 野元 真善 |
| | | | 西洋料理Ⅰ | 100 | | ○ | ○ | 加藤 弘朗 |
| | | | 中国料理Ⅰ | 100 | | ○ | ○ | 天野 浩明 |
| 総合調理実習 | 90 | 製菓実習Ⅰ | 40 | | ○ | ○ | 平野 芳春 | |
| | | 基本・集団調理 | 60 | | ○ | ○ | 吉田・古川 | |
| | | レストランサービス | 20 | | | ○ | 加藤・内海 | |
| 小計 | 960 | | 990 | | | | | |

| | | | |
|-----------------------|--------------|------|--------------------------|
| 高度料理技術実習 | 日本料理Ⅱ | 60 | 2022年度 専攻科2年次 履修科目 |
| | 西洋料理Ⅱ | 60 | |
| | 中国料理Ⅱ | 60 | |
| | 製菓実習Ⅱ | 60 | |
| | サイエンスクッキング | 60 | |
| | ライフステージ栄養学実習 | 60 | |
| | 選択 | 福祉調理 | |
| 高度調理 | | | |
| フードサービス実習 | 校外実習 | 150 | |
| 調理に関する 国際コミュニケーション | 食育インストラクター | 60 | |
| | レストランサービスⅡ | 60 | |
| | フードランゲージ | 30 | |
| 小計 | | 780 | |
| 合計 | | 1770 | |

| | | |
|---|----------------|------------------------|
| 教科名 公衆衛生学 | 開講時期 1年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 48 コマ |
| 授業方法 教科書に沿って講義を進め、章ごとに確認テストを実施 みなさんの意欲に応じてワークショップを取り入れる | | 担当者名 小関 俊成 |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | 食の専門家である調理師は、食の喜びや楽しさとともに健康を社会に提供し貢献する存在です。あわせて食と疾病の関係、食と労働との関連についての知識、調理師として職場環境を安全なものとする情報を紹介します。 |
| 到達目標 | 調理師として健康に関係する幅広い知識(食と疾病や労働との関連等)を身に付け、そのための具体的技術を習得する。 |

授業計画

| | |
|--|---|
| 1章 | 第1回～第10回「調理師と健康」10コマ（基本は10コマですが11コマになる場合あり） 健康とは何かを学び、食と健康との関係性について理論的根拠に基づいて知識を深める。 学習を通じて健康づくりに貢献できる調理師としての在り方を考える ①健康と日本の健康水準について ②望ましい健康とはなにか ③食生活と健康との関係 ④健康な食生活習慣とは何か ⑤調理師の役割を明らかにし、社会から期待される調理師像を考える 第11回の最初に1章のテストを実施 |
| 2章 | 第11回～第14回「食生活と疾病」4コマ（1章の関係で、3コマになる場合あり） さまざまな疾病のメカニズム、現在の動向と予防について知る。 特に食が深く関与する生活習慣病について学習を深め、調理師としてのかかわりを考える。 ①いろいろな疾病 概要とメカニズム ②生活習慣病のメカニズムとその予防 調理師としてできること 第15回の最初に2章のテストを実施 |
| 3章 | 第15回～第24回「健康づくり」10コマ 積極的な健康づくりの考え方を知り、健康教育のあり方を考える。また心の健康に関する基礎知識を学び、豊かな食生活に寄与する調理師のあり方を考える。 ①機能的病態と器質的病態 未病について ②機能的病態時からの健康増進 ③日本の健康づくり対策 健康に関する食品情報 ④メンタルヘルス上のいろいろな課題 ⑤心身一如 ストレッサーとストレスコーピング 第25回の最初に3章のテストを実施 |
| 4章 | 第25回～第32回「調理師と食育」8コマ 食育の概念とその由来を知り、食を通じた健康づくりに調理師としてどのように貢献するかを考察する ①食育とは何か なぜ食育なのか ②食育基本法の成り立ちと歴史 実際の事例 ③調理師として推進する食育プログラム作りと発表 |
| 前期期末試験 範囲 1章～4章(4章の内容は授業が終わっている所まで)のまとめ試験 3章までの時もあり | |

| | |
|--|--|
| 5章 | <p>第33回～第38回 「労働と健康」 6コマ 労働環境が健康に及ぼす影響について理論と実際について理解を深め、調理師の職場環境の現状と向上の方途を考える。あわせて調理現場の労働災害とリスクマネジメントを学ぶ</p> <p>①環境と人間 労働環境が人間に及ぼす影響 ②職業に由来する健康問題と災害 その予防 ③調理環境の現状と予想されるリスクとリスク回避（校外実習の経験から振り返る）</p> <p>第39回の最初に5章のテストを実施(この時、4章の内容を少し含みます)</p> |
| 6章 | <p>第39回～第48回 「環境と健康」「公衆衛生学のまとめ」 10コマ 5章の学習の視点をさらに広くする 私たちの生活全体の環境や食との関連について考える。公衆衛生について調理師としての自分の考えをまとめる</p> <p>①生活環境の衛生と食物連鎖 ②私たちを取り巻く環境条件 ③環境の汚染とその改善のための取り組み ④公衆衛生について調理師としての自分の考えをまとめて発表する</p> |
| 後期期末試験 範囲 5章と6章のまとめ試験（4章の内容を少し含みます） | |
| <p>評価方法</p> <p>1章、2章、3章、5章テスト 10点×4 公衆衛生学の発表(レポートでのまとめ)10点満点 前期期末テスト 30点満 後期期末テスト 30点満点 合計 110点満点 100点を超えた場合は100点とする 80点以上 A 65点以上 B 50点以上 C</p> | <p>使用教科書等</p> <p>・調理師養成教育全書 必修編 1「食生活と健康」 全国調理師養成施設協会 編</p> |

| | | |
|------------------------|----------------|-----------------------|
| 教科名 栄養学 | 開講時期 1年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 48コマ |
| 授業方法 講義 単元ごとに小テスト実施 | 担当者名 本宮 仁美 | |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | 食品に含まれる栄養素の種類や働き、体内での仕組み(消化・吸収・代謝)について学びます。また、食と健康の関係を理解するために、エネルギー代謝や食品の選択方法、ライフステージ栄養学等についても学びます。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 健康を考えた調理のできる調理師を目指すため、栄養の基本的な知識を身に付ける。 自分自身や家族の健康管理を食事面から考え、生活に取り入れられるようになる。 |

授業計画

| | | | |
|-----------------------|-------|--|------------------|
| 栄養と健康 | 1 | 栄養学を学ぶ目的 | |
| | 2~3 | 栄養とは何か、健康との関わり ① なぜ調理師にとって栄養学が必要なのか理解する。 ② 身体の構成成分と五大栄養素について理解する。 | ●小テスト① |
| 栄養素について | 4~7 | 炭水化物 ① 種類とその働きについて学ぶ。 ② 疾病との関り、糖尿病についても理解を深める。 | ●小テスト② |
| | 8~11 | 脂質 ① 種類とその働きについて学ぶ。 ② 疾病との関り、肥満についても理解を深める。 | ●小テスト③ |
| | 12~14 | たんぱく質 ① 種類とその働きについて学ぶ。 ② 疾病予防機能などについて学ぶ。 | ●小テスト④ |
| | 15~20 | ビタミン(脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン) ① 種類とその働きについて学ぶ。 ② 欠乏症・過剰症について理解を深める。 | ●小テスト⑤ |
| | 21~26 | ミネラル(多量ミネラルと微量ミネラル) ① 種類とその働きについて学ぶ。 ② 欠乏症・過剰症について理解を深める。 | ●小テスト⑥ ●レシピ作成 |
| | 27 | その他の成分 ① 水の働きや摂取と排泄について理解を深める。 | ●小テスト⑦ |
| 消化と吸収 | 28~29 | 食品の摂取 ① 空腹、満腹になる理由「食べる」という行動について学ぶ。 | |
| | 30~34 | 栄養素の消化・吸収・代謝 ① 口から摂取した食品に含まれる栄養素が体内でどのように消化・吸収・代謝されるかを学ぶ。 ② 代表的な疾病についても体の構造とともに理解を深める。(肝臓病・腎臓病・便秘など) | ●小テスト⑧ |
| ★前期期末試験 実施(範囲 : 1~27) | | | |

| | | | |
|---|-------------------|---|-----------------------------------|
| エネルギー代謝 | 35～37 | <p>エネルギー代謝とは・身体活動の計測</p> <p>① 実際に自分自身の身体計測を実施し、栄養評価に必要な指標(BMI・基礎代謝量・身体活動レベル・エネルギー消費量)が求められるようになる。</p> <p>エネルギー摂取量とエネルギー消費量</p> <p>① エネルギー摂取量と消費量の関係を理解する。</p> | <p>●小テスト⑨</p> <p>●生活時間調査作成</p> |
| 食品の選択 | 38 39 40～41 | <p>日本人の食事摂取基準</p> <p>食品標準成分表・食品分類法</p> <p>食事バランスガイド</p> <p>① 健康な生活を送るための栄養素摂取のもととなる食事摂取基準について学ぶ。</p> <p>② 1日の食事をバランスよくとる工夫や、自分自身の食事内容を評価する。</p> | <p>●小テスト⑩</p> <p>●食事バランスガイド作成</p> |
| ライフステージ栄養学 | 42～43 | <p>ライフステージについて</p> <p>妊娠期・授乳期の栄養</p> <p>① 成長、発達、加齢の概念を学び、ヒトのライフステージについて理解する。</p> <p>② この時期の身体的特徴と食事の関わりについて理解する。</p> | |
| | 44 | <p>乳児期の栄養</p> <p>① この時期の身体的特徴と食事の関わりについて理解する。</p> <p>② 母乳(粉ミルク)から、離乳食、食事への流れについて学ぶ。</p> | |
| | 45～46 | <p>幼児期の栄養</p> <p>学童期の栄養</p> <p>思春期・青年期の栄養</p> <p>① この時期の身体的特徴と食事の関わりについて理解する。</p> <p>② それぞれの時期特有の問題点を理解し、改善策を提案できるようにする。</p> | |
| | 47 48 | <p>成人期の栄養</p> <p>高齢期の栄養</p> <p>① この時期の身体的特徴と食事の関わりについて理解する。</p> <p>② 疾病との関り、生活習慣病についても理解を深める。</p> | |
| ★後期期末試験 実施(範囲 : 28～48) | | | |
| <p>評価方法</p> <p>●小テスト、プリント提出 30%</p> <p>★定期試験 60%</p> <p>ノート提出 10%</p> | | <p>使用教科書等</p> <p>・「新調理師養成教育全書必修編 2 食品と栄養の特性」 全国調理師養成施設協会 編</p> <p>・プリント</p> | |
| <p>80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C</p> | | <p>学生授業準備品</p> <p>・ノート、A4 ファイル、電卓</p> | |

| | | |
|------------|----------------|------------------------|
| 教科名 食品学 | 開講時期 1年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 32 コマ |
| 授業方法 講義 | 担当者名 長谷川 千賀子 | |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | 旬、調理実習の食材に合わせながら、「食品の特性、成分、機能性」を理解する。個人の嗜好や喫食場面に応じて食品を適切に選択、利用できるための知識を学ぶ。 |
| 到達目標 | 食品の旬、性質、成分の知識を深め、食品の特徴を生かした調理ができるようになる。食品の生産・流通、利用法を学び、食材を無駄なく利用する姿勢を身につける。 |

授業計画

| | | | |
|--|--|---|---|
| 1 | 食品の特性 旬の食材 | 17 18 | 動物性食品とその加工品 (魚介類) 旬、種類、構造、成分、 死後変化、加工品 |
| 2 3 4 | 植物性食品とその加工品 (穀類) 種類、構造、成分、利用法、生産 | 19 20 | (食肉類) 種類、構造、成分、熟成と成分変化、 加工品等 |
| 5 6 | (いも類) 種類・性状、成分、利用法 | 21 22 23 | (卵類)鶏卵の構造、成分、鮮度と貯蔵 (乳類)牛乳の成分、乳製品等 |
| 7 8 | (豆類) 種類・性状、成分、利用法、生産 加工食品 | 24 | (油脂類) 植物性・動物性油脂・加工油脂の特徴 |
| 9 | (種実類) 種類・性状、成分、利用法、 | 25 26 | (嗜好飲料) 製造、分類・種類等 (調味料・香辛料・膨張剤) 製造、分類・種類、用途等 |
| 10 11 12 | (野菜類) 分類・種類、性状、成分、 利用法、旬・生産 | 27 28 | 食品の加工と貯蔵 目的と原理、加工、貯蔵法、 微生物利用 |
| 13 14 | (果実類) 定義と分類、成分、旬 生理変化と貯蔵、利用と加工 | 29 30 | 食品の生産と流通 生産と輸入、流通の仕組みと供給 |
| 15 16 | (きのこ類)(藻類) 栽培法と種類(成分表収載)、成分 利用法、産地 | 31 32 | 1年間の復習・演習問題 |
| 評価方法 期末試験 50%、確認テスト 40% 提出物 10% 80点以上:A、65点以上:B、50点以上:C | | 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 必修編 2「食品と栄養の特性」 オールフォト食材図鑑 全国調理師養成施設協会 編 | |

| | | |
|--------------|-----------------|------------------------|
| 教科名 食品衛生学 | 開講時期 1 年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 48 コマ |
| 授業方法 講義 | 担当者名 東 澄子 | |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | 食品の安全の重要性を認識し、飲食による健康危害の原因とその予防法に関する知識や技術について学ぶ。 |
| 到達目標 | 食の安全に関する知識技術を習得し、調理現場における科学的根拠に基づいた衛生管理の実践を目標とする。 |

授業計画

| | | | |
|---|--|--|---|
| 1 ～ 2 | 第1章 食の安全と衛生 食の安全を守るために調理師が果たすべき役割について学習する。 | 21 ～ 32 | 3 細菌性食中毒 主な食中毒菌の特徴とそれらによる食中毒の予防法について学ぶ。 |
| 3 ～ 7 | 第2章 食品と微生物 微生物の特徴を理解し、微生物による健康危害の発生を未然に防止する基礎を学ぶ。 | 33 ～ 35 | 4 ウイルス性食中毒 ノロウイルスなど食中毒の原因となるウイルスの特徴とその予防法について学ぶ。 |
| 8 ～ 10 | 第3章 食品と化学物質 1 食品添加物 利点と安全性および使用時の注意点などについても理解する。 | 36 ～ 39 | 5 自然毒食中毒 フグや有毒キノコなど自然界の動植物の体内成分による食中毒について学ぶ。 |
| 11 ～ 12 | 2 食品と重金属 食品に含まれる重金属の有害性などについて。 | 40 ～ 41 | 6 化学性食中毒 有害化学物質による食中毒について。 |
| 13 ～ 14 | 3 食品と放射性物質 放射性物質の人体への影響などについて。 | 42 ～ 45 | 7 寄生虫による食中毒 主な寄生虫の特徴とそれらによる食中毒の予防法について学ぶ。 |
| 15 ～ 17 | 第4章 器具・容器包装の衛生 器具・容器包装について、その材質や特性について理解し、適正な用途と使用方法について学ぶ。 | 46 | 8 経口感染症 経口感染症と食中毒の関係などについて。 |
| 18 | 第5章 飲食による健康危害 1 飲食による健康危害の種類 | 47 ～ 48 | 9 食物アレルギー 食物アレルギーについて学ぶ。 |
| 19 ～ 20 | 2 食中毒の概要 国内の食中毒発生状況について学ぶ。 | | |
| 評価方法 定期試験(中間試験・期末試験) 90% 提出物および出席状況等 10% 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | | 使用教科書等 ・調理師養成教育全書 必修編 3「食品の安全と衛生」 全国調理師養成施設協会 編 | |

| | | |
|-------------|----------------------|------------------------|
| 教科名 調理理論 | 開講時期 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 64 コマ |
| 授業方法 講義 | 担当者名 加藤 弘朗 古川 満美子 | |

| | |
|------|--|
| 教科概要 | 食材は調理というプロセスを経ておいしくなります。おいしくなる途中に何が起るのかを科学的根拠を元に学びます。これが調理の「こつ」です。経験的なこつにとどまらず、科学的な裏付け、それが調理を上手に調理することの原理となっているか学びましょう。また大量調理は数名分の調理と異なる「こつ」や手順があります。フードビジネスとしての給食全体の理論的ベースの理解を深めましょう。 |
| 到達目標 | ・「こつ」の科学的根拠を知り、調理実習と結びつけて理解を深める。 ・給食システムの中で行われる大量調理について学び、一連の業務についての技術や知識を身に付ける。フードビジネスとしての給食、チームワークで作る給食について考える。 |

授業計画

| | | | |
|-------------------------|--|---------------|---|
| 1 ~ 4 | 第1章 調理とおいしさ ・調理とは 調理理論を学ぶ意義 調理の目的 ・おいしさの要因 食べ物の側にある要因 食べる人の側にある要因 | 9 ~ 12 | 第2章 調理の基本操作 ・非加熱調理操作 (計量,洗淨,浸漬,切碎,混合,攪拌,磨碎,粉碎,成形・圧搾・ろ過,冷却,冷凍,解凍) ・加熱調理操作 (湿式加熱,乾式加熱,誘電加熱,誘導加熱) |
| 5 ~ 8 | 第4章 調理設備・器具と熱源 ・調理施設、設備とは ・調理器具 非加熱調理器具 加熱調理器具 ・食器と容器 材質別の容器の特徴 料理別食器の種類 ・調理と熱源 熱源の種類と特徴 熱効率 | 13 ~ 48 | 第3章 食品の調理科学 ・植物性食品 (穀類,いも及びでんぷん類,砂糖,豆類,種実類,野菜類,果実類,きのこ類,藻類) ・動物性食品 (魚介類,食肉類,卵類,乳類) ・その他食品 (油脂類,調味料,ゲル状食品) ※調理実習 ・砂糖の調理性について ・ゲル化素材 他 |
| 方法 | 使用教科書等 | | |
| 筆記試験 80% | 新調理師養成教育全書 | | |
| 提出物 10% | 必修編 4「調理理論と食文化概論」 | | |
| 出席状況 10% | 全国調理師養成施設協会 編 | | |
| 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | | | |

| 集団調理実習 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 集団調理実習にあたって 集団調理実習の進め方 ・給食とは | 9 | ・献立の立て方 (荷重平均、献立作成表の作成・内容検討) |
| 2 | ・給食施設 給食システム ・調理師の仕事 | 10 | ・対象別献立作成と調理(学校給食) |
| 3 | ・集団調理実習の流れ ・食品発注計画(発注量計算) ※成分表・電卓用意 | 11 | ・対象別献立作成と調理 (病院・老人施設) |
| 4 | ・運営計画 (作業指示書・作業工程表) | 12 | ・対象別献立作成と調理 (児童施設・事業所) |
| 5 | 大量調理施設衛生管理 マニュアル ・趣旨・重要管理事項・標準作業書 | 13 | ※技術考査勉強 |
| 6 | ・衛生管理計画 | 14 | 危機管理(食中毒時の対応) 事例(対応例3、衛生管理) |
| 7 | 大量調理の特徴と調理技術 ・献立とは、献立作成の基本・指標 | 15 | 危機管理(災害時給食) 事例(阪神淡路、中越地震、中越沖地震) |
| 8 | ・献立の立て方 (調査把握・目標量・荷重平均) | 16 | 調理従事者として まとめ、感想文、試験対策 |
| 評価方法 定期試験(筆記) 70% 出席 20% 提出物 10% 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | | 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 必修編 2「食品栄養の特性」 必修編 3「食品安全と衛生」 必修編 4「調理理論と食文化概論」 必修編 6「総合調理実習」 全国調理師養成施設協会 編 ・プリント ・成分表・電卓用意 | |

| | | |
|--------------|----------------|-----------------------|
| 教科名 食文化概論 | 開講時期 1年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 32コマ |
| 授業方法 講義 | 担当者名 清水 まり子 | |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | 日本および世界の食文化の成り立ちや特徴を学習し、現代の食の問題点や食をとりまく環境にも目を向け、調理師が食文化の担い手であるという自覚を養う。 |
| 到達目標 | ①食文化の成り立ちを自然環境、社会的背景、歴史などに関連させて考察する。 ②日本の食生活、食文化の変遷を理解し、未来の食文化へも目を向ける。 ③世界の食文化の特徴を知る。 |

授業計画

| | | | |
|----|------------------|----|------------------|
| 1 | 食文化とは何か、自然環境と食文化 | 14 | 現代の食生活 |
| 2 | 食物と宗教、食法、調理法の多様性 | 15 | 中食と外食、食品ロス |
| 3 | 食文化の共通化と国際化 | 16 | 食生活の問題点と食育 |
| 4 | 日本の食文化史 | 17 | 食と環境 |
| 5 | 日本の食文化史 | 18 | 西洋料理の変遷 |
| 6 | 日本料理の特徴 | 19 | 西洋料理の特徴 |
| 7 | 日本料理様式 | 20 | 西洋料理様式、西洋料理の食事作法 |
| 8 | 日本料理様式 | 21 | 中国料理の変遷 |
| 9 | 日本料理の食事作法 | 22 | 中国料理の特徴 |
| 10 | 行事食 | 23 | 中国料理様式、中国料理の食事作法 |
| 11 | 五節句の食事 | 24 | その他の国の食文化 |
| 12 | 郷土料理 | 25 | その他の国の食文化 |
| 13 | まとめ、試験対策 | 26 | 試験対策、作文課題 |

テーブルマナー

| | | | |
|--|------|---|------|
| 1 2 | 西洋料理 | 3 4 | 日本料理 |
| 5 6 | 中国料理 | | |
| 評価方法 期末試験(定期テスト) 9割 出席および提出物 1割 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | | 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 必修編 4「調理理論と食文化概論」 (第5章～7章) 全国調理師養成施設協会 編 | |

| | | |
|---------------|-----------------|------------------------|
| 教科名 日本料理 I | 開講時期 1 年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 56 コマ |
| 授業方法 実習 | 担当者名 野元 真善 | |

| | |
|------|--|
| 教科概要 | 日本料理の基本技術や調理から盛り付けまでの一連の動作の習得。 旬の素材の知識や日本料理に大切な歳時記の習得を目指す。 |
| 到達目標 | 日本料理の基本である「剥く」「打つ」「切る」を完全に習得し、職場で即実践できるスキルを身につけると共に、プロフェッショナルとしての情熱と感性を磨く。 |

授業計画

| | | | |
|---|--|----|--------------------------------------|
| 1 | 包丁研ぎの練習をする。 大根で切り方の練習をする。 一番だしの取り方(大根の味噌汁) | 8 | 夏野菜と揚げ出し豆腐 蕪とサーモンの黄身酢掛け だし巻き玉子 |
| 2 | だしの取り方 二番だしを取る。 豚汁 大根の桂剥き 胡麻ドレッシング | 9 | 沢煮椀 鮎の塩焼き だし巻き玉子 |
| 3 | だし汁の取り方復習 春野菜の吸い物 五色きんぴら | 10 | 翡翠茄子 わらび餅 鰯の酢じめ |
| 4 | 鰯の南蛮漬け (鰯の三枚おろしの練習) 空豆とベーコンの炊き込みご飯 | 11 | 天婦羅の基本 蟹蒲鉾の砵巻き 辛子酢味噌掛け |
| 5 | 鰯の三枚おろしの練習→鰯の竜田 揚げの甘酢餡掛け | 12 | 枝豆ご飯 海老しんじょうのお椀 |
| 6 | 鶏の治部煮 一口素麺温泉卵添え 大根の桂剥き | 13 | 調理技術コンクールの課題を踏まえたレシピ |
| 7 | 前期中間試験 実技・大根の桂剥き 基本の切り方 | 14 | 前期期末試験 実技・だし巻き玉子 筆記試験 |

| | | | |
|--|---|--|-------------------------------|
| 15 | 茶碗蒸し 鯛のあら炊き | 22 | 鯖の味噌煮 船場汁 |
| 16 | 水羊羹 かますの幽庵焼き | 23 | 鱈の姿造り |
| 17 | 鮭の信州蒸し 鯛のつみれ汁 | 24 | 炊合せ 胡麻豆腐 |
| 18 | 秋刀魚ご飯 笹身のための揚げ | 25 | 里芋饅頭 烏賊の鳴門造り |
| 19 | 鯖の平造り・鱈の糸造り 友禅膾 | 26 | 飾り寿司 手毬寿司 細巻き |
| 20 | 白身魚の蕪蒸し 鶏の鋤焼き | 27 | 合鴨八幡巻き 越後のっぺい汁 |
| 21 | 後期中間試験 実技試験・桂剥き・大根のけん・蛇腹 胡瓜・鱈の三枚おろし | 28 | 後期期末試験 実技試験・野菜の剥き物 筆記試験 |
| <p>評価方法</p> <p>実技試験 50点</p> <p>筆記試験 30点</p> <p>実習状況・ノート提出 20点</p> <p>80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C</p> | | <p>使用教科書等</p> <p>・新調理師養成教育全書 必修編 5「調理実習」 必携 調理実習レシピ集 全国調理師養成施設協会 編</p> | |

| | | |
|---------------|-----------------|------------------------|
| 教科名 西洋料理 I | 開講時期 1 年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 56 コマ |
| 授業方法 実習 | 担当者名 加藤 弘朗 | |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | 日本料理や中国料理に対して西洋で発達した料理の基本を学びます。日本に本格的な西洋料理が導入された最初は明治時代のフランス料理ですが、イタリアやスペイン、その他西欧各国には独特の料理があります。食文化概論の知識も思い出しながら実習をしてほしいです。 |
| 到達目標 | 西洋料理の基本的な作り方の習得。地理・気候・歴史からくる料理の違いを実習を通して体得する。 |

授業計画

| 西洋料理の基礎を学ぶ(フレンチを元に) | | |
|---------------------|---|---|
| 1 | 西洋料理の実習に入る前に ・概要説明、実習室の使い方、包丁の使い方 | 6 白いソースと応用 ・ソース ベシャメル ・マカロニと小海老のグラタン ・ポークロースのブレーゼ アルザス風 |
| 2 | 基本のだし汁(ブイヨン) ・浅蜷のスパゲッティ ・ブイヨン ・ミルファンテ スープ | 7 褐色のだし汁、おなじみのイタリアン ・フォン ド ブオー ・ミネストローネ ・スパゲッティ カルボナーラ |
| 3 | 基本的な冷製ソース ・マヨネーズとビネグレット ・白身魚のグージョネット・タルタルソース添え ・サラダ コンポーゼ | 8 褐色のソース ・デミグラスソース ・ハンバーグステーキ |
| 4 | 卵料理 ・卵料理の色々 ・オムレツ | 9 魚料理とバターソース ・舌ひらめのムニエル(焦がしバターソース) ・仔羊のコートレット・ニース風 ・トマトのクロスティニー |
| 5 | サラダの応用と混合せバター ・帆立貝のサラダ仕立てイチゴドレッシング ・トウモロコシのクリームスープ ・ミックスサンドイッチ | |

| 応用料理(基礎編) | | |
|-----------|---|--|
| 10 | カレーライス ・コンソメ用ブイヨン ・チキンカレーライス ・スパイスを多用して作る本格的チキンカレー | 12 コンソメスープ、冷製パスタ ・コンソメ ・スカンピとルコラの冷製カップリーニ ・ビーフストロガノフ |
| 11 | 冷製スープ ・かぼちゃの冷製スープ ・ハム入りのオムレツ ・カプリ風サラダ | |

| 前期定期試験 | | | |
|--------|--------------------------|----|-----------------------------|
| 13 | 前期中間試験 (筆記、個人実技) 6月予定 | 14 | 前期期末試験 (筆記、個人&チーム実技)9月予定 |

| 応用料理(各国の料理とその応用) | | | |
|------------------|---|----|---|
| 15 | ・ポテトとベーコンの田舎風フラン ・長岡巾着なすとフォウグラのミルフィユ仕立て ・パンネのポローニャ風(ミートソース) | 21 | ・クラム チャウダー ・プーレー・ロティ・グランメール ・ポルチーニとシメジのコンソメ炊き込みご飯 |
| 16 | ・スパゲッティ 赤唐辛子入り ガーリックオイル ・ヒューメード ポアソン ・鯛と海老のムニエル二色のソース | 22 | ・カブのピューレー スープ ・ビーフ・シチュー 温野菜添え |
| 17 | ・海の幸 サラダ造りカレー風味 ・野菜のクリームスープ ・牛フィレ肉のステーキ ベアルネーズソース | 23 | ・鴨胸肉の軽い燻製サラダ造り バルサミコドレッシング ・舌ヒラメのボン・ファミ風 |
| 18 | ・ムール貝の漁師風 ・鴨のロースト オレンジ風味 ・ワルドルフ サラダ | 24 | ・ポタージュ・マリガトーニ ・アメリカン クラブハウス サンドイッチ |
| 19 | ・マルセイユ風アサリのスープ ・若鶏のクリーム煮 ・パンツァネラ | 25 | ・チーズフォンデュ ・牛フィレ肉のパイ包み焼 |
| 20 | ・スペイン風 かき卵入りガーリックスープ ・帆立貝と海老の蒸し煮 ベェルモットソース ・チキンソテー シャスールソース | 26 | ・冷製デコレーション |

| 後期定期試験 | | | |
|---|------------------------------|--|-------------------------|
| 27 | 後期中間試験 (筆記、個人&チーム実技)11月予定 | 28 | 後期期末試験 (筆記、個人実技)1月予定 |
| <p>評価方法</p> <p>実技試験((個人 70%・班 30%)50点 筆記試験 50点(実技ノートチェック含む) 合計 100点 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C</p> | | <p>使用教科書等</p> <p>・新調理師養成教育全書 必修編 5「調理実習」 全国調理師養成施設協会 編</p> | |

| | | |
|---------------|-----------------|------------------------|
| 教科名 中国料理 I | 開講時期 1 年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 56 コマ |
| 授業方法 実習 | 担当者名 天野 浩明 | |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | 中国料理の基礎知識を身に着け(挨拶、衛生管理、包丁管理、調理技術片付け)全体の段取りができるように指導する。 班の人たちとのコミュニケーションが取れるよう学生に配慮し就職してから困らない様に指導する。 |
| 到達目標 | 1年次は、中国料理の基本知識と技術を反映する。多岐にわたる料理体系を理解し習得する。調理技術の反復練習や中国語の料理名や材料名を学習し定期試験に備える。 |

授業計画

| | |
|---|---|
| 1 | ① 基本知識と実習の流れ(挨拶・衛生・片付け・器具) ② 中華包丁の研ぎ方。 ③ 中華鍋焼き掃除 ④ 包丁さばき(野菜の切り方) ⑤ ネギ油(葱油) ⑥ ラー油(辣油) ⑦ 中国甘味噌(甜麵醬) |
| 2 | ① 基本スープの取り方(清湯・毛湯・哨湯・白湯) ② 包丁さばき(野菜の切り方) ③ 干しエビと大根のスープ(蘿蔔蝦米湯) ④ 玉子炒飯鍋振り練習(蛋炒飯) |
| 3 | ① 包丁さばき(野菜の切り方) ② 冷菜「茹で鶏の四川風胡麻ソースかけ」(棒棒鶏) ③ 干し貝柱と大根のスープ(蘿蔔干貝湯) ④ 玉子炒飯鍋振り練習(蛋炒飯) |
| 4 | ① 豚肉の薄切りニンニクソースかけ(雲白肉片) ② ザーサイと大根のトロミのついたスープ(榨菜蘿蔔羹湯) ③ 玉子炒飯鍋振り練習(蛋炒飯) |
| 5 | ① 大根と挽き肉の炒め煮(蘿蔔肉末醬) ② ラーメン調理法(拉麵) ③ 玉子炒飯鍋振り練習(蛋炒飯) |
| 6 | ① ピーマンと牛肉の細切り炒め(青椒牛肉絲) ② トロミのついた酸っぱ辛いスープ(酸辣湯) ③ 玉子炒飯鍋振り練習(蛋炒飯) |
| 7 | ① 前期中間試験(大根の切り方・片・絲・末) ② 大根とクラゲの味付け彩り盛り(海蜇蘿蔔蛋捲) |
| 8 | ① イカ飾り切りの冷菜山椒ソース(涼拌魷魚) ② 大根とハム入り揚げパイ(蘿蔔酥餅) ③ 玉子炒飯鍋振り練習(蛋炒飯) |

| | |
|----|--|
| 9 | <p>① 焼き餃子(鍋貼餃子) <small>くおうてい いちや おず</small></p> <p>② シューマイ(鮮肉焼売) <small>しえんろうしや おまい</small></p> <p>③ 薄焼き玉子練習(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 10 | <p>① カシューナッツと鶏肉の炒め(腰果鶏丁) <small>やおく おじいでい えん</small></p> <p>② 鶏肉の醤油煮込み(紅焼鶏塊) <small>ほうしや おじい くわい</small></p> <p>③ 薄焼き玉子練習(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 11 | <p>① 冷やし中華(涼拌麵) <small>りやんぱん みえん</small></p> <p>② 肉味噌そば(炸醬麵) <small>ざあじやん みえん</small></p> <p>③ 薄焼き玉子(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 12 | <p>① 中華風カニ入り玉子焼き(芙蓉蟹蛋) <small>ふうわん しえたん</small></p> <p>② アンニン豆腐(杏仁豆腐) <small>しんれん どうふう</small></p> <p>③ ハムレタス炒飯(洋火腿生菜炒飯) <small>やんほうとえいしよんつあいちゃおふあん</small></p> |
| 13 | <p>① 揚げ春捲き(炸春捲) <small>さあしゆんじゆあん</small></p> <p>② スープ入り饅頭(小籠包子) <small>しやおろんぱ おず</small></p> <p>③ 玉子炒飯(蛋炒飯) <small>たんちゃおふあん</small></p> |
| 14 | <p>① 前期期末試験 玉子炒飯(蛋炒飯) <small>たんちゃおふあん</small></p> |
| 15 | <p>① 豚肉のぶつ切り甘酢あんかけ・酢豚(糖醋肉塊) <small>たんつうろうくわい</small></p> <p>② 玉子と豚肉の薄切り炒め(蛋炒肉片) <small>たんちゃおろうびえん</small></p> <p>③ 薄焼き玉子(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 16 | <p>① イカの花切り辛し炒め(公爆魷花) <small>こんばおゆいほあ</small></p> <p>② イカの薄切りミルク炒め(奶油魷片) <small>ないようゆうびえん</small></p> <p>③ 玉子スープ(蛋花湯) <small>たんほあたん</small></p> |
| 17 | <p>① 肉入り饅頭(鮮肉包子) <small>しえんろうぱ おず</small></p> <p>② 桃饅頭(寿桃包子) <small>しやうたおぱ おず</small></p> <p>③ 薄焼き玉子(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 18 | <p>① 五目焼きそば(什錦炒麵) <small>しちちんちゃおみえん</small></p> <p>② 四川風胡麻辛味そば(坦々麵) <small>だんだんみえん</small></p> <p>③ 薄焼き玉子(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 19 | <p>① 豆腐の四川風煮込み白ご飯添え(麻婆豆腐) <small>まあほうどうふう</small></p> <p>② 揚げ豆腐の煮込み(家常豆腐) <small>じゃあちゃんどうふう</small></p> <p>③ 薄焼き玉子(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 20 | <p>① 鶏肉のさいの目切り甘味噌炒め(醬爆鶏丁) <small>じやんぱおじいでい えん</small></p> <p>② 鶏肉の唐揚げ香味ソースかけ(油淋鶏塊) <small>ようりんじい くわい</small></p> <p>③ 薄焼き玉子(蛋皮) <small>たんびい</small></p> |
| 21 | <p>① 後期中間試験「薄焼き玉子」(蛋皮) <small>たんびい</small></p> <p>② 海老のすり身の巻物「蒸し物、揚げ物」(蒸如意蝦捲・炸如意蝦捲) <small>じよんるういしやじゆあん ざあるういしやじゆあん</small></p> |

| | | | |
|---|---|---|--|
| 22 | ① 海老のチリソース(乾焼蝦仁) ② 海老のマヨネーズ和え(沙律蝦球) ③ 五目炒飯(什錦炒飯) | | |
| 23 | 特別授業 鈴木勝之先生 ① 野菜の彫刻 野菜の彫刻の技術を学ぶ(花、鳥、蝶) | | |
| 24 | ① 鮮魚の蒸し物(清蒸鮮魚) ② カレイの香り揚げ(香炸鯪魚) ③ ピーマンと豚肉細切り炒め(青椒肉絲)試験課題練習 | | |
| 25 | ① 肉団子の甘酢かけ(糖醋丸子) ② さつまいもの糸ひき餡がらめ(拔絲紅薯) ③ キクラゲと玉子と豚肉細切り炒め(木犀肉絲) | | |
| 26 | ① 豚肉の薄切りカレー味炒め(咖喱肉片) ② 中国風変わりドーナツ揚げ(開口笑) ③ ピーマンと豚肉細切り炒め(青椒肉絲)試験課題練習 | | |
| 27 | ① 若鶏の香り揚げ(香酥鶏)・中国風クレープ(薄餅) ② タピオカ入りココナッツミルク(椰汁西米露) ③ ピーマンと豚肉細切り炒め(青椒肉絲)試験課題練習 | | |
| 28 | ① 後期期末試験 ピーマンと豚肉細切り炒め(青椒肉絲) | | |
| <table border="1"> <tr> <td> 評価方法 実技試験 60点 筆記試験 20点 ノート提出 10点 学習態度 10点 合計 100点 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C </td> <td> 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 必修編 5「調理実習」 全国調理師養成施設協会 編 ・講師独自のレシピ </td> </tr> </table> | | 評価方法 実技試験 60点 筆記試験 20点 ノート提出 10点 学習態度 10点 合計 100点 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 必修編 5「調理実習」 全国調理師養成施設協会 編 ・講師独自のレシピ |
| 評価方法 実技試験 60点 筆記試験 20点 ノート提出 10点 学習態度 10点 合計 100点 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 必修編 5「調理実習」 全国調理師養成施設協会 編 ・講師独自のレシピ | | |

| | | |
|---------------|-----------------|------------------------|
| 教科名 製菓実習 I | 開講時期 1 年次 通年 | 時間数(コマ数) 授業時間 22 コマ |
| 授業方法 実習 | 担当者名 平野 芳春 | |

| | |
|------|---|
| 教科概要 | お菓子やデザートを作る為の基本的技術や知識を習得。 創造力を働かせて色彩やデザイン等美的感覚を養う。 |
| 到達目標 | 見て美しく、食べておいしい夢のあるお菓子を作る。 材料を正しく計量し、作業手順をしっかり守る。 |

授業計画

| | | | |
|--|---|---|---|
| 1 | ゼラチンの扱い方、クッキー生地の作り方、 生クリームの泡立て方。 ストロベリームース、チュイル・ダンテル | 7 | 栗を使ったお菓子の代表作 ガトーモンブラン、マロンクリーム の作り方、絞り方、餡の飾り等を学ぶ。 |
| 2 | 別立て法のスポンジ生地の作り方。 バナナ風味のシフォンケーキ他 | 8 | タルト生地とアーモンドクリーム を使ってフルーツタルトを作る。 餡の糸に挑戦し飾ってみる。 |
| 3 | シュー生地、クレームパティシエール 表面がサクリパリパリのアーモンド 風味のシュークリームを作ろう。 | 9 | ロールケーキを作る。共立て法 で作るスポンジ生地を焼いて、 クリスマスケーキの定番 ビッシュ・ド・ノエルを作る。 |
| 4 | チョコレートの扱い方、生地の 作り方。 香り高いチョコレートケーキ、 ガトーショコラ・クラシック を作ります。 | 10 | クリームチーズを使って パンプキンチーズケーキと レアチーズケーキを作る。 |
| 5 | 前期期末試験 | 11 | 後期期末試験 |
| 6 | パイ生地の扱い方、伸ばし方を 習得しよう。 リンゴの甘酸っぱい味が際立つ アップルパイ | | |
| 評価方法 定期テスト(実技)60 点(筆記)20 点 (実技ノート)20 点 合計 100 点 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | | 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 必携 調理実習レシピ集 全国調理師養成施設協会 編 | |

| | | |
|---------------------|-----------------------|------------------------|
| 教科名 総合調理実習(基本調理) | 開講時期 1 年次 前期 | 時間数(コマ数) 授業時間 28 コマ |
| 授業方法 実習 | 担当者名 吉田 健太郎 古川 満美子 | |

| | |
|------|--|
| 教科概要 | 調理というのは分野が違ってても、基本的な知識・技術は共通しています。これを身に付けることによってより高度な調理が可能になります。まずは、基礎から習得しましょう。しかし、大量調理というのはレストランや専門店の料理とは異なる調理工程があります。こちら実習を通じて身につけて欲しいです。 |
| 到達目標 | 包丁の使い方、食材の下処理の基本を習得する。 1食の献立構成、配膳の形態を理解する。 お客様に提供する料理を作るという意識を持ち、衛生管理、味、見た目、盛り付けの細部まで注意して調理する。 |

授業計画

| | | | |
|--|---|---|---|
| 1 | 調理器具について 包丁の持ち方・使い方 基本的な切り方 | 8 | 回鍋肉 中華スープ 白菜の中華風甘酢漬け 杏仁豆腐 ※寒天の煮溶かし方 |
| 2 | かきたま汁 煮魚 お浸し 草餅 ※炊飯の炊き方、とろみについて 煮魚の要点 葉野菜の茹で方 | 9 | スパゲティミートソース ジュリエンヌス ープ グリーンサラダ プリン ※卵の希釈 湿式加熱 |
| 3 | 豚ロース肉の蒸し焼きどんぶり 中華スープ ナムル りんごゼリー ※肉の筋切り アガーの扱い方 | 10 | 五目おこわ すまし汁 鰯のかば焼き 春雨の酢の物 ※もち米の扱い方、鰯の手開き |
| 4 | かぶのスープ煮 ミートローフ コールスローサラダ フルーツ ※挽肉の扱い方 フルーツの基本的な切り方 | 11 | 沢煮椀 鱈フライ 筑前煮 ※鱈の3枚卸し バター液について パン粉のつけ方 |
| 5 | 味噌汁 鮭の鍋照り焼き 切り干し大根の煮物 白和え ※乾物の扱い、あえ物のコツ | 12 | ちらし寿司 あさりの吸い物 南瓜の含 め煮(そばろあん) ※酢飯の作り方、面取り |
| 6 | 冷うどん 天婦羅 酢の物 ※海老の下処理 天ぷらコツ | 13 | 校内コンクール練習 ※鱈の3枚卸し |
| 7 | 前期中間試験 実技・かきたま汁 きゅうりの輪切り | 14 | 前期期末試験 実技・大根のせん切り ポークソテー |
| 評価方法 定期試験 70% 出席 10% 授業態度 10% 提出物 10% 80点以上:A 65点以上:B 50点以上:C | | 使用教科書等 ・新調理師養成教育全書 調理実習レシピ集 全国調理師養成施設協会 編 メニューの変更あり | |

| | | |
|---------------------|-----------------------|------------------------|
| 教科名 総合調理実習(集団調理) | 開講時期 1 年次 後期 | 時間数(コマ数) 授業時間 16 コマ |
| 授業方法 実習 | 担当者名 吉田 健太郎 古川 満美子 | |

| | |
|------|--|
| 教科概要 | 集団調理の特徴を理解し、調理作業書に沿って衛生的に作業することができる。 班作業を意識して協力し合い、責任をもって実習に取り組むことができる。 |
| 到達目標 | ①大量調理の特性を理解することができる ②大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った行動ができる ③コミュニケーションをとりながら作業をすることができる |

授業計画

| | | |
|----------------------------|---|---|
| 1 | <p>集団調理実習の目的と実習内容</p> <p>集団調理の運営</p> <p>集団調理の特徴と配膳</p> <p>給食後の作業</p> <p>集団調理実習</p> <p>試作</p> <p>検収作業</p> <p>実習</p> <p>後方付け</p> <p>反省会</p> | <p>授業の進め方</p> <p>実習上の注意・心構え</p> <p>実習結果のまとめ・レポート</p> <p>食材管理、調理作業管理</p> <p>大量調理の特徴、献立作成</p> <p>盛り付け・配膳、検食</p> <p>食器の洗浄と保管、調理器具の洗浄・消毒</p> <p>給食関係事務処理</p> <p>試作、作業工程の確認、大量調理</p> <p>盛り付け、配膳・配食作業、食器・調理機器の洗浄と消毒、その他の清掃作業他</p> <p>作業効率の向上とケガや災害の防止に努める。</p> <p>施設・設備、食品(調理過程の食品の取り扱い)人の衛生管理、検食保存を行う。</p> |
| 11 | まとめ | 実習結果のまとめ・レポート |
| 評価方法 | 使用教科書等 | |
| 出席 100% | ・新調理師養成教育全書 | |
| 授業態度 100%の平均で算出 | ・大量調理マニュアル | |
| 80 点以上:A 65 点以上:B 50 点以上:C | | |
| ただし、レポートが未提出の場合は不合格とする。 | | |

| | | |
|--------------------|---------------------|------------------------|
| 教科名 レストランサービス I | 開講時期 1 年次 後期 | 時間数(コマ数) 授業時間 11 コマ |
| 授業方法 講義・実技 | 担当者名 内海 安彦 加藤 弘朗 | |

| | |
|------|------------------------|
| 教科概要 | 料理知識及び料飲サービスに関する基礎を学ぶ。 |
| 到達目標 | 調理場での最低限の知識を持つ。 |

授業計画

| | | |
|--|--------------------------|---|
| 1 | プロをめざすあなたへの 基礎接遇の基礎知識 | プロになる為の心がまえ、考え方、学び方、発想、こだわり、差別化、健康と仕事、挨拶、言葉遣い、進み方、生き方、積極性と消極的 |
| | 料飲一般知識 | 接客サービス、サービスの種類、サービスの心得、身だしなみ、コミュニケーション、チームワーク、ホスピタリティー |
| | 什器、食器、備品の知識 | 什器、食器、備品の取扱い、シルバーウエアー、チャイナウエアー、グラスウエアー、リネン、ワゴン、その他備品 |
| | 西洋料理の基礎知識 | 西洋料理の概要 |
| | メニュー | メニューの役割、メニューの意味とサービスの仕方 |
| | フルコースの知識 | フルコースの順序、コース料理の解説 |
| | 朝食の基本料理 | コース料理の順序、解説 |
| | 実践 | テーブルセッティング、ナプキンの折り方 |
| | フレーミングデザート | クレープシュゼット |
| 11 | | ◎保護者食事会(12 月上旬予定) |
| 評価方法 筆記試験:80% 実技試験:20% 80 点以上:A 65 点以上:B 50 点以上:C | | 使用教科書等 新調理師養成教育全書 「レストランサービス」 全国調理師養成施設協会 編 |